

# AMDAの挑戦

相互扶助の世界  
SOUND FUDO

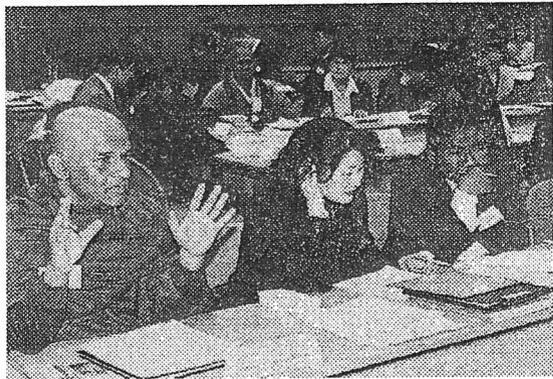
>29<

## 連携を求めて

情報伝達に優れ、素早い対応が可能なネットワーク型の人道援助を目指すAMDA。海外17支部のほか、これまでにアシ

ア多国籍医師団、アジア太平洋緊急救援機構(A PRO)などさまざまなNGOとの連携を進めてきた。「AMDA単独では無理な人道援助もネットワークを組めば可能。連携は最大の武器」と田

宗派を超えた協力を話し合った各国の宗教NGO関係者＝'96おかもま国際貢献NGOサミットで



代邦子広報担当が話すように、AMDAのパートナーは宗教、教育など医療分野だけでなくさまざまな。「AMDAの挑戦」新章は、AMDAの成長を支えるNGOネットワークについて検証する。

先月下旬、岡山市で開催された'96おかもま国際貢献NGOサミットで「人道援助宗教NGOネットワーク」が成立した。宗教をテーマにAMDAの菅波茂代表ら18カ国のNGO代表者が参加。人道援助のために宗教者が宗派を超えて協力することを誓い合った。会場には仏教の僧りよにイスラム教徒、キリスト教徒：

異教徒同士が同じ目的で手をつなぐ極めて珍しいケースだ。

## 宗派を超えた協力誓う

なぜ宗教なのか。菅波代表は「宗教への理解なしにAMDAの活動は成り立たない」と言い切る。インドはヒンズー教、パキスタンはイスラム教、フィリピンはキリスト教。AMDAが活動する国々ではそれぞれの宗教観に根づいた生活が営まれている。もちろん、多国籍集団であるAMDA

会員の宗教もさまざま。効果的な援助に宗教は無視出来ないという訳だ。一方、「宗教アレキギ」を持つ日本人は少なくない。サミットを主催したトビアの会事務局長で、黒住教教嗣、黒住宗道さんは「宗教が前面に出ると、抵抗感を示す人が多い。布教と感ずるからでしょう」と話す。阪

知られていない。今後、宗教NGOがAMDAなど手を結ぶことで、どんなメリットが生まれるのか。また、本当に人道援助で宗派の違いを超えた協力は可能なのか。「ネットワークはできた。次は具体的な行動で効果を示したい」と菅波代表は期待を込めて話す。

【石川 隆寛】